

剣道初二段審査会学科試験問題 (解答を記入して審査当日持参して下さい)

令和5年9月10日

※ 受審番号は、審査会当日にならないと分かりません

段	受審番号	氏名
---	------	----

1. 次の文章は、日本剣道形について書かれたものです。文中の空欄に正しい言葉を下から選んで書きなさい (20)
- (1) 上段の構えは太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ。日本剣道形では、() と諸手右上段の構えがある。
- (2) 日本剣道形の二本目は打太刀、() 共に中段の構えである。この構えはすべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適している。
- (3) 日本剣道形の三本目は相下段で構える。この構えは() をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
- (4) 日本剣道形を実施するときの足さばきはすべて() で行い、踏み込み足は使わない。

仕太刀	目付け	剣先	下段	諸手左上段	すり足	中段
-----	-----	----	----	-------	-----	----

2. 「しかけていく技」について、A群とB群で関係のあるものを線で結びなさい。 (20)

A 群	B 群
払い技	・ 体当たりや鏝ぜり合いから、引きながら打突する
出ばな技	・ 相手が打突しようとする動作の起こりを打突する
二段三段の技	・ 相手の竹刀を払い、構えをくずして打突する
引き技	・ 最初の部位を打突して、これによって相手の変化し、隙のできた部位を続けて打突する

3. 次の文章は、「試合に臨む心構え」に関して説明したものです。文中の空欄にあてはまる言葉を下群から選び、記号で答えなさい。 (20)

試合をするときは() のみにこだわらず、相手の() を尊重し、正しい() や態度、充実した氣勢で正々堂々と() に競い合う心構えが大切である。

ア：手元 イ：勝敗 ウ：人格 エ：顔面 オ：公明正大 カ：姿勢

4. 次の文章で正しいものには○、まちがっているものには×をつけなさい。 (20)
- (1) 竹刀での刃部とは、弦の反対側である。 ()
- (2) 切り返しの連続左右面打ちの角度は45度である。 ()
- (3) 試合者は、審判の判定に不服がある場合は、意義を申し立てることができる。 ()
- (4) 鏝ぜり合いになったら、相手の反撃を封じ込めるために、自分の竹刀を相手の首や肩に押しつける。 ()

